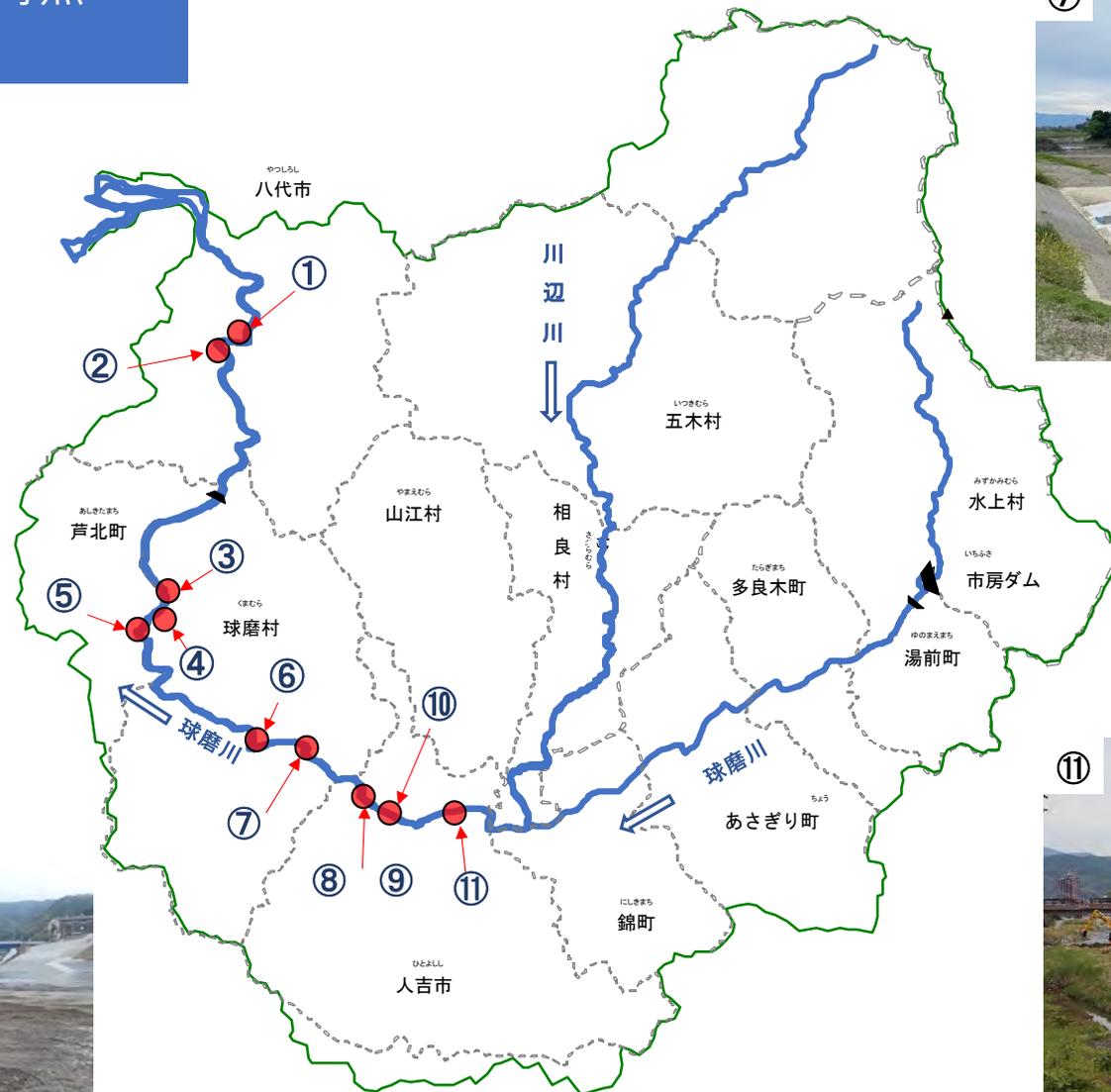


球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗状況<河道掘削>

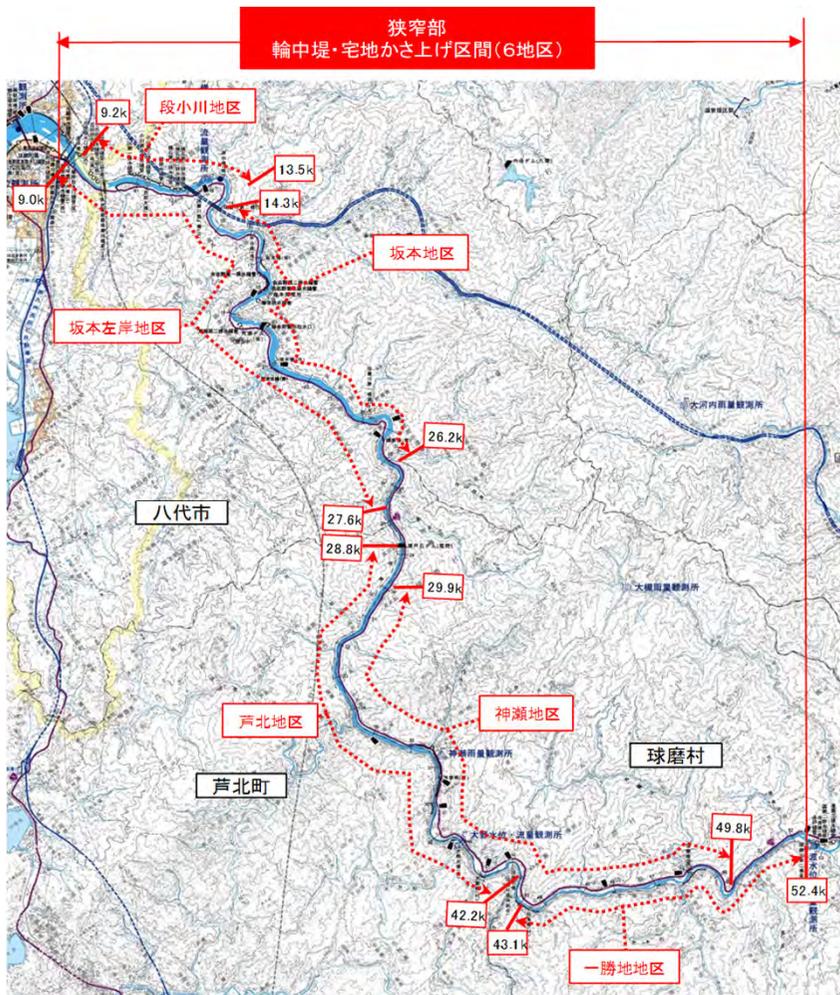
- 出水期前までに予定していた約70万m³の掘削が令和3年5月末までに完了。
- 引き続き、球磨川河道内の掘削を行っており、令和4年4月末現在約94万m³を撤去。

令和4年4月末時点
実施中箇所



球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗状況<輪中堤・宅地かさ上げ>

- 輪中堤・宅地かさ上げについて、県及び関係市町村と連携を図ったうえで対象となる各地区で事業説明会等を令和3年3月から順次開催（3市町村計 52回開催 ※4月末現在）。
- 事業説明会にて事業説明及び現地立ち入りの説明を行ったうえで、令和3年4月から現地調査（家屋敷高調査等）を行い、現在、測量・地質調査等を実施中。
- また、復興・再生に向けた各地区のまちづくり懇談会等に参加し、地元との合意形成に努めている。



令和4年3月～4月の説明会等実施状況



地区別事業説明会(R4.4.16)
【八代市段・小川・横石地区】



地区別事業説明会(R4.4.28)
【八代市藤本地区】



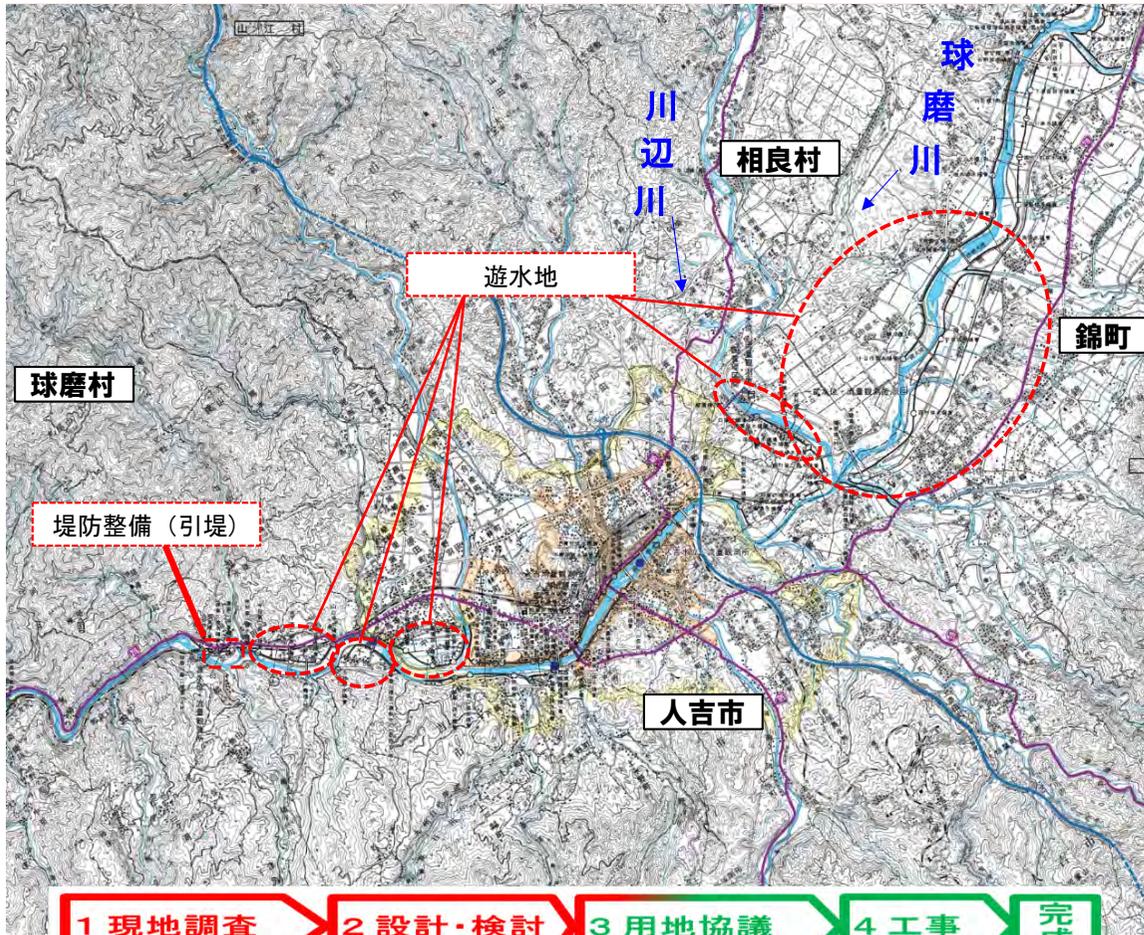
用地調査の状況【芦北町白石地区】



測量の状況【球磨村中園地区】

球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗状況<引堤・遊水地>

- 引堤、遊水地について、県及び関係市町村と連携を図ったうえで対象となる各地区で事業説明会等を令和3年2月から順次開催（4市町村計 27回開催 ※4月末現在）。
- 事業説明会にて事業説明及び現地立ち入りの説明を行ったうえで、令和3年4月から現地調査（測量等）を行い、現在、用地調査、地質調査を実施中。
- また、復興・再生に向けた各地区のまちづくり懇談会等に参加し、地元との合意形成に努めている。



令和4年3月～4月の説明会等実施状況



事業説明会(R4.3.21)
【球磨村渡地区】



事業説明会(R4.3.11)
【人吉市中神地区】



地質調査の状況【錦町】



用地調査の状況【球磨村】



※図上の点線囲み範囲は測量等のおおまかな計画範囲を示す

球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗状況<災害復旧>

- 国管理区間では、堤防決壊2箇所、護岸等の被災29箇所の災害復旧工事を実施。
- 堤防が決壊した2箇所については、令和3年5月末までに本復旧を完了した。

【位置図】



- : 被災箇所(令和4年度出水期までに完成予定)
- : 被災箇所(本復旧完成)

㉗堤防決壊箇所(球磨川右岸56.4k付近)



本復旧実施中



本復旧状況



㉞堤防決壊箇所(球磨川左岸55.0k付近)



本復旧実施中



本復旧状況



球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗状況<災害復旧>

- 護岸等の被災箇所のうち、緊急性の高い18箇所の被災箇所については本復旧が完了。
- 残りの箇所(高水敷の被災等)については令和4年出水期までに完了予定。

【位置図】



【被災状況】



【復旧状況】



③被災状況

球磨川左岸13k000付近
(坂本西部地先)



③復旧完了



球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗状況<権限代行区間>

○権限代行9河川については、令和3年5月末までに約20万m³の土砂掘削を完了。
 ○護岸等の被災施設の復旧については、約140箇所全箇所に着手し、令和4年度末までに完了予定。



【施工前状況】



【施工後状況】



【施工状況】



球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗状況【ソフト対策の取組状況】

～防災活動の着実な実施・連携体制の構築～

■令和2年7月球磨川豪雨災害を踏まえた水害タイムラインの改善

○八代市、人吉市、球磨村で運用中の「球磨川水害タイムライン」について、令和2年7月球磨川豪雨時の災害対応状況を整理したうえで、①流域自治体および防災関係機関へのヒアリング、②住民アンケート調査 ③球磨川水害タイムラインふりかえり会議(AAR/IP 会議)により水害タイムラインの課題を抽出し改善を実施。

球磨川水害タイムラインの主な課題及び改善のポイント

主な課題(抜粋)	改善のポイント	改善内容	
		行動項目	内容
<ul style="list-style-type: none"> ・危機感を持ったタイミングの差異が初動対応に大きく影響した ・体制を基準より前倒しすると避難所開設がスムーズだった ・もう一押し of 助言があれば 対応が違った 	流域で共有した情報の活用	流域で共有した情報に基づく体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ■流域内の運用会議での共有情報を確認 ■激甚洪水になるかどうかの検討 ■激甚洪水になると予想された場合、今後の対応について自治体内で意思決定 ■激甚洪水になると予想された場合、ステージの移行を待たず早期の対応を実施
		流域で共有した情報の活用	<ul style="list-style-type: none"> ■流域内の運用会議(Web)への参加 ■メーリングリストによる流域情報の共有
<ul style="list-style-type: none"> ・危機感や情報が庁内の全職員に共有できていない自治体が見られた ・防災担当者が電話対応に追われた事例も見られた 	自治体内部の意思決定プロセスと役割分担の見直し	自治体内部の情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ■流域内の運用会議の情報、災害対策本部の情報を自治体内へ周知、共有
		情報・現象の監視	<ul style="list-style-type: none"> ■専門に監視する職員を配置 ■府県気象情報の監視 ■雨雲の動き、気象庁HPの危険度分布、河川水位等の監視
		警察や報道機関への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ■警察・マスコミ等へ対応の準備【専門要員の配置】
		住民とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ■住民からの通報・問合せ対応の準備【専門要員の配置】
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間・強雨時の避難行動を避けるため、早めの避難情報発信が必要であった ・洪水警報や避難勧告が出た時間帯では、半数近くが寝ていて伝わっていない可能性がある 	夜間・就寝などの生活時間を考慮したタイムラインの運用	夜間避難への対応(避難時間帯が夜間となる可能性がある場合)	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者等避難の早期発表の検討 ■早期に住民へ避難呼びかけを実施
<ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者の避難対応において、急激な水位変化により対応できない場合が見られた 	地域コミュニティへの協力依頼	地域コミュニティへの協力依頼	<ul style="list-style-type: none"> ■避難に関する情報を地域コミュニティへ提供(共有) ■高齢者、要支援者への注意喚起を依頼

球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗状況【ソフト対策の取組状況】

～防災活動の着実な実施・連携体制の構築～

■令和2年7月球磨川豪雨災害を踏まえた球磨川流域タイムラインの深化

「球磨川流域タイムライン運用会議」

○注意報・警報発表より早い段階(※気象庁(地方气象台)が5日前に発表する早期注意情報(大雨の警報級の可能性中)あるいは府県情報第1号)において流域全体で危機感を共有し、各自治体や各機関が早めに防災行動へ着手することを目的として、「球磨川流域タイムライン運用会議」を開催。

○会議では、熊本地方气象台や、タイムラインアドバイザー(東京大学松尾一郎特任教授、元気象庁予報課長 村中 明アドバイザー等)より、大雨の予測や気象の見立てなどを情報提供。

○自治体からは、「令和3年8月出水時に气象台やアドバイザーによる気象の見立てを受け、早期の避難所開設の判断の後押しになった」との意見あり。

球磨川流域タイムライン運用会議の様子

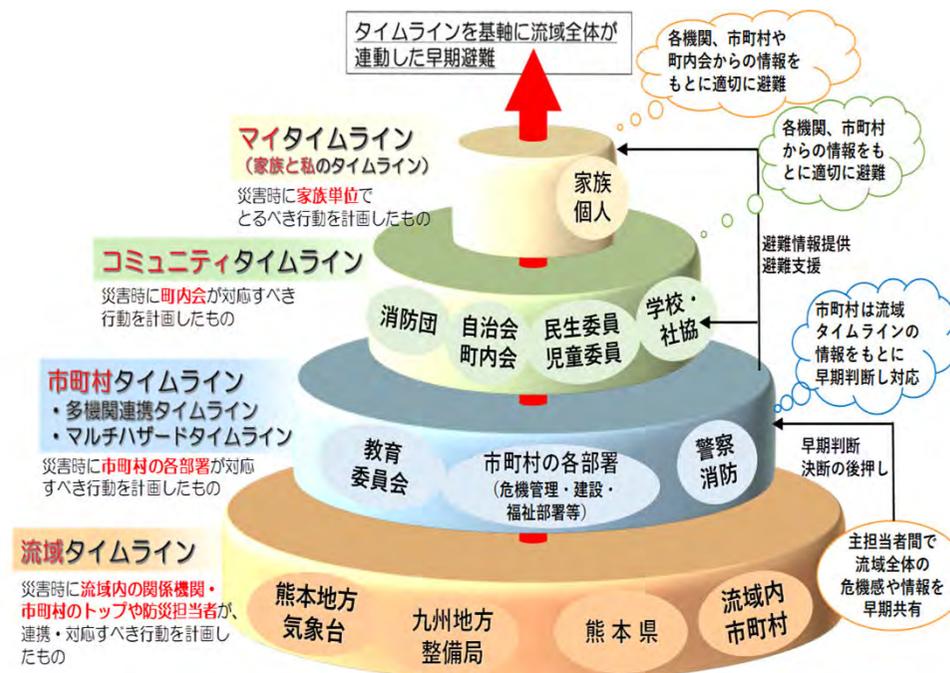


「球磨川流域タイムラインの今後の展開」

○球磨川流域では、流域全体の連動した避難、各自治体の早期判断・決断の後押し等を目的に、球磨川本川、支川、土砂災害を対象とした「流域タイムライン」を作成中。

○R4出水期までに作成・試行運用し、適宜見直しを行う予定。

流域タイムラインの施設管理者(国、県)と市町村の連動イメージ



球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗状況【ソフト対策の取組状況】

～平時からの住民等の防災意識醸成～

■NHK熊本放送局・NPO防災WEST・八代河川国道事務所 協働防災学習（令和4年3月10日）

- ARハザードマップや浸水体験装置を使い、小学校で体験型の防災学習を開催。
- 水害の怖さを理解し、令和2年7月豪雨と同じような水害が発生した場合でも、状況に応じた行動ができるようにする。
- 大雨・洪水時にはどう行動したらよいか、参加した小学生から保護者へ呼びかけることで、家族で避難行動について改めて考える場をつくり、早めの対策・準備につなげる。

1日の流れ

- ①体験実験&講義（45分）
 - ・浸水ドア実験
 - ・流水模型の実験
 - ・気圧の実験
- ②大雨防災ワークショップ
グループワーク・発表（90分）
- ③マイタイムラインの作成（45分）
- ④ARハザードマップ体験（15分）
- ⑤小学校にある栽柳園に隠された秘密
川の仕組み
ペットボトルを活用した漏水の模型
破堤のメカニズム（40分）
- ⑥防災上必要な情報の得方（20分）



①浸水ドア実験



①流水模型の実験



②大雨防災ワークショップ
グループワーク



②グループワーク発表



④ARハザードマップ



⑤漏水の模型



⑥防災上必要な情報の得方について

球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗状況【ソフト対策の取組状況】

～平時からの住民等の防災意識醸成～

■令和3年度各教育機関での出前講座

- 令和2年7月豪雨の概要や、流域治水対策プロジェクトの説明を行い、流域全体での取り組みを学習してもらう。
- 「避難するために必要な情報」や避難時に潜む「用水路等の災害のリスク」を考え、フィールドワークを行い、実際に防災マップの作成することで避難時の自助・共助の意識を高める。

熊本高専(5年生)への防災教育
(R3.10.4)



八代高校(1年生)への防災教育
(R3.10.15)



八代高校(1年生)への防災教育
(R3.10.22)



球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗状況【ソフト対策の取組状況】

～水害リスクの周知～

■令和2年7月豪雨で浸水した深さを示す「洪水標識」の設置（国、人吉市、八代市、球磨村）

○令和2年7月豪雨時の浸水深を示す「洪水標識」を生活空間である「まちなか」に表示することで、日頃から水防災への意識を高め、次世代に伝える記録として残しつつ、洪水時に命を守るための住民の避難行動の目安とすることで、被害を最小限にとどめることを目的に設置。今後も、順次被災箇所を設置を予定。

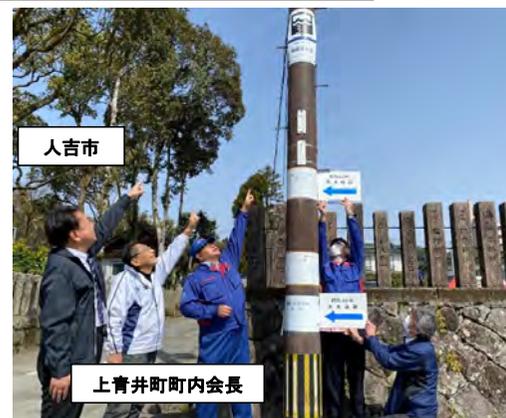
令和3・4年の設置箇所数

人吉市紺屋町 (R3.3.23) 1箇所
人吉市九日町 (R3.3.23) 1箇所
八代市坂本町松崎地区 (R3.9.29) 6箇所
人吉市温泉町 (R3.10.29) 3箇所
球磨村渡地区 (R4.1.24) 1箇所
球磨村一勝地地区 (R4.1.24) 1箇所
球磨村神瀬地区 (R4.1.24) 1箇所
人吉市上青井町 (R4.3.25) 6箇所
人吉市下青井町 (R4.3.25) 1箇所
計 21箇所

人吉市上青井町と協働で設置 (R4.3.25)



洪水標識看板



人吉市

上青井町町内会長

洪水標識



八代市坂本町松崎地区と協働で設置 (R3.9.29)



洪水標識看板



松崎地区代表

八代市

球磨村渡地区と協働で設置 (R4.1.24)



洪水標識看板



渡地区会長

球磨村

球磨川水系緊急治水対策プロジェクト【円滑な事業進捗や住民理解促進に向けて】

～流域治水への理解促進や住民参加のための説明会～

令和2年7月豪雨以降、八代河川国道事務所では円滑な事業進捗や住民の方への事業の理解促進に向け、事業に関する住民説明会を随時実施している。

また、球磨川水系緊急治水対策プロジェクトに関連して、各自治体が開催する事業説明会やまちづくり懇談会に積極的に参加することで、地域の意見をお聴きして事業に反映し、円滑な事業進捗につなげている。

更に幅広い年代に球磨川流域への理解、防災意識を醸成して頂くための取り組みとして、流域の学校を対象に河川環境教育・防災教育に取り組んでいる。

各説明会等実施状況（令和4年4月末時点）

■流域治水に関する説明会・懇談会（R3.2月～）

◇開催・参加回数 134回

◇のべ参加人数 4,495名

自治体毎内訳

八代市	61回	芦北町	7回
人吉市	25回	球磨村	27回
その他	14回		

■河川環境教育・防災教育（R2.7月～）

◇開催回数 17回

◇のべ参加人数 627名

直近の開催状況

（防災教育）

令和3年10月4日 熊本高専八代キャンパス5年生 20名参加

令和3年10月15・22日 八代高校1年生 のべ24名参加

令和4年3月10日 植柳小学校4・5年生 のべ80名参加

（河川環境教育）

令和3年10月15・22日 八代高校1年生 のべ116名参加

令和3年11月24日 宮地小学校ごみパトロール 24名参加



事業説明会の様子
（球磨村）



環境教育の様子
（ごみパトロール）



防災教育の様子
（フィールドワーク）